

「在外漆工品の修理の推進」



松 本 達 弥

文化庁 2026 8.26

漆工品修理の経緯と現状

日本から輸出された漆工品は世界中の美術館・博物館に所蔵されされているが、修理やメンテナンスは所蔵する各国の修理方法で行われてきた。

基本的に、海外では原材料である漆を使った修理は行われていないのが現状である。

現在、海外での漆工品修理の指導は、個人的な活動でワークショップや研修セミナーを開催しているのみである。

在外日本古美術品保存修復協力事業

(東京文化財研究所主催)

日本から海外に輸出された漆工品を、日本に輸送し修理して戻す事業が、1998年(平成10年)から開始された。

東京文化財研究所の修理室にて、毎年3～4点修理を行なう。作品の損傷状態により修理期間は1年～3年を要するものなどさまざまであった。

在外日本古美術品保存修復協力事業 (東京文化財研究所主催)



＜主な修理事例＞

「山水人物蒔絵箆笥」
スペイン国立装飾美術館
(2005年～2007年修理)





V&A美術館(2008年修理)



アシュモリアン美術館(2008年修理)



アムステルダム国立美術館(2010年修理)

在外漆工品保存修復 専門家海外派遣事業

(東京文化財研究所主催)

会場:ドイツ・ケルン東洋美術館内修理室

事業期間:2006年～2018年

担当した漆工品修理技術者

- ・2006年～2010年 北村繁 松本達弥

(漆工品修理、ワークショップの開催 毎年2ヶ月ほど滞在)

- ・2011年～2016年 山下好彦

(ワークショップのみ開催 毎年10日ほど滞在)

- ・2017年～2018年 大西智洋

(ワークショップのみ開催 毎年10日ほど滞在)

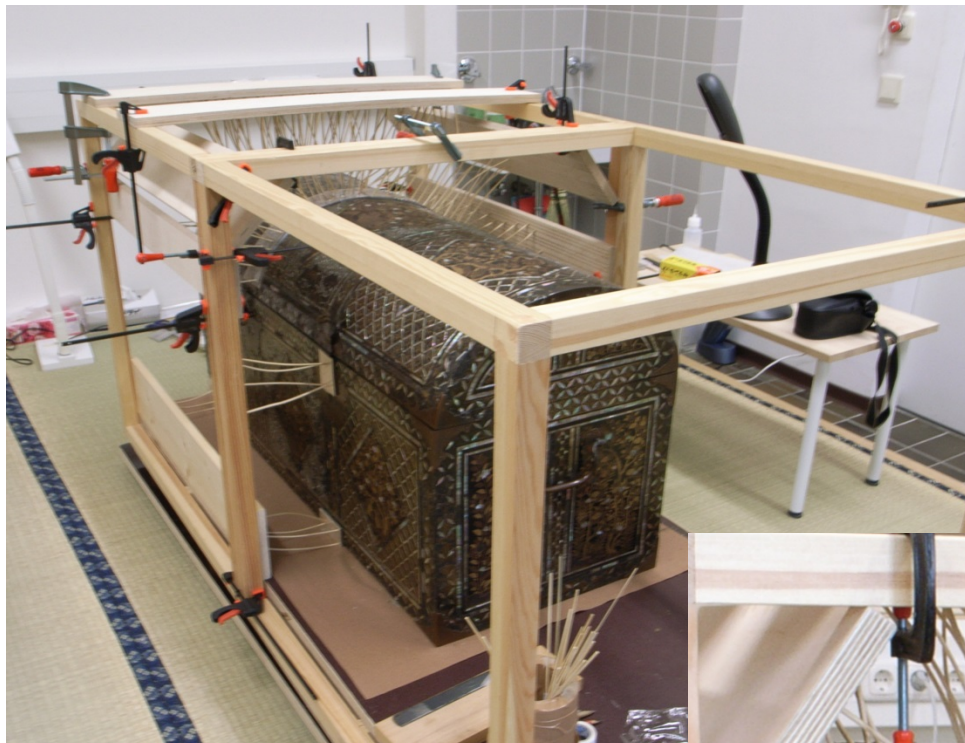
ドイツ・ケルン
東洋美術館内の修理室



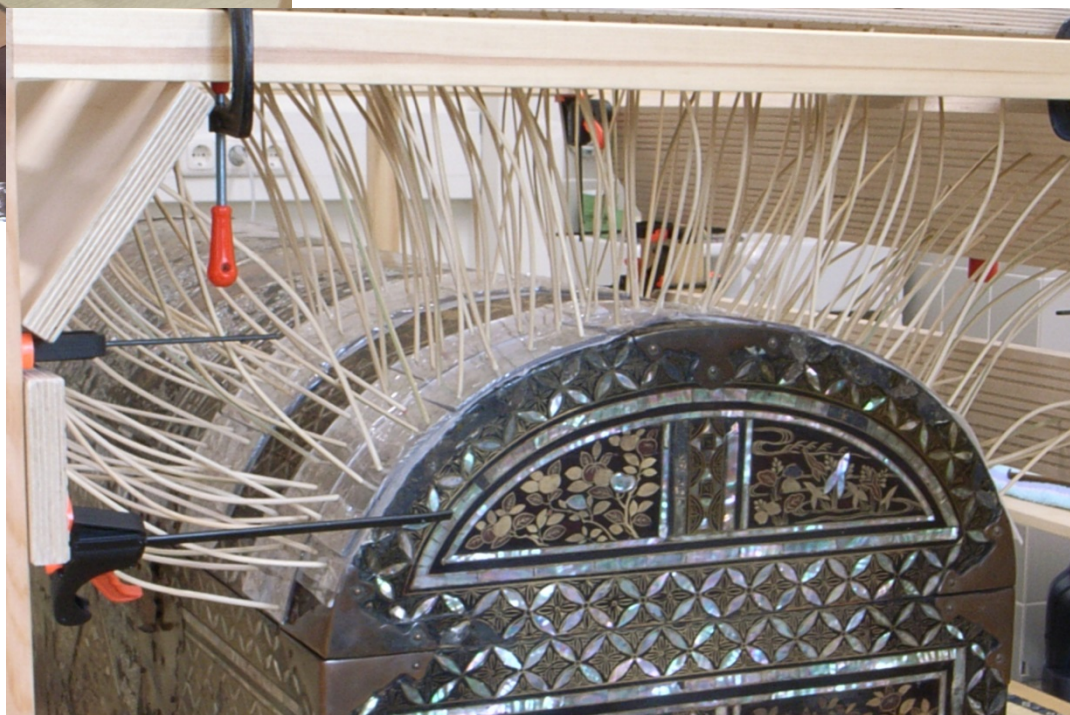
クリーニング
後補塗料の除去



2006



剥離螺鈿の芯張り圧着



現地で工夫して木
杵を製作



漆工の基礎講座



2008

漆を使った修理体験

派遣事業終了後の状況

COVID-19により、海外への渡航が制限された。その間、バルセロナの漆工品修理者や制作者にオンライン講義を開催。

欧米での修理・研修活動は、個人レベルの活動となった。



近年の活動事例

レクチャー
デモンストレーション

ポーランド・クラクフ
Manggha Muzeum

2018



(一社)TAKUMIWORLD主催



パリ・ギメ美術館

レクチャー
デモンストレーション

道具・材料の説明



2018

(一社)TAKUMIWORLD主催

ヴィクトリア & アルバート博物館 (V&A)



東芝国際交流財団の支援で
漆風呂を設営



漆ワークショップ

2025

(公社) 東芝国際交流財団主催



Getty保存研究所 (GCI)

J.ポール・ゲティ美術館 (ロサンゼルス) (2025年3月)





URUSHI ミーティング (Getty主催)

世界の漆工品修理者
11名が招待され参加





修理技術の意見交換

分析機材が整った 修理室





修理された作品の展示

世界各国からの
参加者



修理 理念の共有

海外では、漆は可逆性がないということで、漆を使った修理を行わない考えがある。

しかし、漆を使った修理には、持続可能性があり、繰り返し修理が行える有意性がある。

そのため、我々日本国内での修理に対する理念や技術・材料を理解してもらい、漆工品を後世に継承していくことの共有が重要である。

先ずは、我々が行っている修理理念を理解してもらい指導者的立場の人材の育成を目指す必要がある。

海外での修理指導者の育成プロジェクト

<企画メンバー>

- Stephanie Auffret Getty 保存研究所 (GCI)
- Dana Melchar Rijks Museum
- 北村 繁 選定保存技術保持者
- 松本 達弥 選定保存技術保持者
- 室瀬 智弥 (公財) 室瀬漆文化財団

プロジェクトの基本構想(案)

本事業は5年間継続的な研修プログラムとして実施し、年2回の研修会を開催する。各回5～7名ほどの将来修理プロジェクトを担う人材を育成することを目標とする。

将来的に各地域で指導的役割を担える中堅層の育成を優先する。美術館等に所属する者に限定するか、フリーランスの修理技術者も含めるかは検討が必要。

毎年2回の研修のうち、日本での開催を1回、アムステルダム又はロサンゼルスでの開催を1回とする。

若手世代の接点を増やすため、プロジェクトアシスタントとして、国内外の若手を参画させて、同時に育成が可能になることが理想である。

プロジェクトの期間中、定期的にオンラインミーティングを開催して、サポートすることも重要である。

欧米での修理技術・材料の共有も重要である。

これから必要な取り組み

- 日本国内で公的に研修ができる施設や修理室
- プロジェクトを継続するには安定した資金面の確保
- 実践的な研修を行うための修理品の確保
- プロジェクトの中核になり得る中堅の育成
- 研修に参画する若手修理技術者の確保

漆工文化財は日本国及び世界の宝である！

この宝を後世に継承するには、修理とメンテナンスを繰り返し行う必要がある！

そして、最も重要なことは人材育成を最優先する必要がある！